

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2370400992		
法人名	有限会社アット		
事業所名	アットホームあいり		
所在地	愛知県名古屋市西区玉池町255番		
自己評価作成日	令和 3年 2月 1日	評価結果市町村受理日	令和 3年 6月15日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/23/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JigyoSyosyoCd=2370400992-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 中部評価センター		
所在地	愛知県名古屋市緑区左京山104番地 加福ビル左京山1F		
訪問調査日	令和 3年 4月17日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

本年度は新型コロナウイルスの流行以前はご利用者様と毎日買い物に出かけ、月に一度の外出をしていた。しかしながら、感染症対策でそれもままならず、その分、今まで以上に近所の公園やホーム周辺の散歩へは積極的に出かけ、少しでも外の空気を感じて頂ける様に努めている。日々の生活ではご利用者様と一緒に食事を作り、共に心の籠った温かい家庭的な料理を提供している。日当たりの良い庭には四季折々の木々が植えられており、庭に出ると季節を感じて頂けるような環境になっている。また、冬場には1Fリビングに暖炉が設置しており、自然なぬくもりを感じ心安らぐ空間になっている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

人事異動によって管理者の交代があった。新管理者は前任者が実践してきた理念(「…人間は人間らしく」)に基づいた支援を継続し、コロナ禍にあっても利用者満足度を損ねない支援を目指している。異動となった前管理者も、自らの支援の集大成を後輩に託し、側面からの応援を約している。新型コロナウイルスへの感染防止を目的として外部との接触を制限しており、10数年継続して開催されてきた「いどばた会議」や「うたごえ喫茶」が中断のやむなきに至っている。防災訓練への地域の消防団の参加も見合わせとなった。奇数月に開催されていた運営推進会議は、感染状況を見定めながらの開催で、令和2年度は3回の通常開催、3回の書面開催となった。地域交流を楽しみとする利用者のためにも、コロナ禍の早期の終息を願わずにはられない。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	入職時のオリエンテーションや月1回の全体ミーティングとスタッフミーティングで事業所の理念は共有されており意識している。事業所理念の「男性は男性らしく、女性は女性らしく、人間は人間らしく」については、ジェンダーの観点からも見直しが検討されるが、ご家族様との意見調整をする中で現状のままとしている。	法人内の人事異動によって管理者の交代があった。新管理者は、前管理者が実践してきた理念に基づいた支援を継続し、コロナ禍にあっても利用者満足度を損ねない支援を目指している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域のお祭り、年末の防犯パトロール、清掃活動などへ参加させて頂き、また、事業所主催である交流会として、いどばた会やうたご喫茶を開催していたが、本年度はコロナ禍の為中止している。	ホームの大きな特徴である「地域との交流・連携」が、全面的にストップしている。令和2年2月の開催を最後に、10数年継続している「いどばた会議」や「うたご喫茶」も中断を余儀なくされている。	新管理者の利用者の満足度を損ねない支援の一環として、地域との交流を楽しみにしている利用者に対し、「楽しみの代替え案」の提供に期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	事業所主催でのいどばた会やうたご喫茶を通じてホームで生活されている方との交流を図っている。また、軽い体操をしたり時事問題を話したりと、地域の方にも有意義な時間を過ごして頂けるよう努めている。上記同様、本年度はコロナ禍の為、中止している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	自治会長、民生委員、消防団団長、いきいき支援センター、社会福祉協議会、ご家族様代表、利用者様に参加して頂き、地域の情報を頂いたり、ホームでの活動報告をしている。情報交換する事でサービス向上に活かされ、そこでの内容を現場と共有し反映させている。	運営推進会議は毎奇数月の開催であるが、今年度はコロナ禍によって、5月、1月、3月が書面開催となった。通常開催できた3回は、ホームからの状況報告に続き、会議メンバーによる活発な意見交換が行われている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市町村担当者との関りはほとんどないが、運営推進会議を通して、いきいき支援センター、社会福祉協議会の方々と情報交換をおこなう事で、小さな事でも相談できる関係性づくりに努めている。	運営推進会議にいきいき(地域包括)支援センターや社会福祉協議会からの参加があり、行政とのパイプ役を担っている。行政との連携継続には、前管理者も側面から応援する態勢をとっている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束についての勉強会を行い、また、月1回のミーティングでは各自のケアの振り返りを必ずおこなっている。その都度、原点に立つ事ができ、共に反省したり助言をもらい共有している。潜在的な身体拘束にも意識し、不適切なケアの廃止に努めている。	毎月の職員ミーティングで、身体拘束のないケアについての話し合いを行い、利用者の権利擁護に関しての職員意識を高めている。年間の研修計画の中に「身体拘束」も盛り込み、職員を3チームに分けて研鑽を図る等、ホーム一丸の取組みとなっている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待についての勉強会を行い、月に一度のミーティングでも身体拘束と同様に話し合われている。また、法人全体でメンタルヘルスの研修を実施し、職員自身の感情コントロールについても講義を受け防止に努めている。常に危機意識を持ち、虐待防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護についての勉強会を行うものの、制度などの深い理解は得られていない。しかしながら、日々の利用者様の権利を守るべく意識はされており取り組んでいる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時に説明を行い、疑問点は随時受け応えている。また、ケアプラン更新の際にも、ご家族様へ説明を行い、終末期については入居の段階でも話をさせて頂いている。日頃からの関わりを良好に保っているおかげで、退去時等も円滑に進められている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	コロナ禍のため本年は中止しているが、年に2度の家族会の開催をしており、ご家族様からの意見を頂いている。発言をしやすいように事業所側から情報も提供し、活発な意見交換ができるよう努めている。また、面会時やケアプラン説明時などにご家族様からのご要望を伺い、忌憚のない意見を頂戴している。ご本人様からの発信が少ないが、要望があれば応えられるようしている。	年に2回の家族会は中止となり、家族の面会は直接の対面を避けて「窓越し面会」として実施している。Zoomによるリモート面会の用意もあり、1家族が利用している。家族アンケートには、ホーム運営に関する建設的な意見が寄せられた。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	全体ミーティングとスタッフミーティングで意見を表出する場があり、個別でも定期的に管理者が個人面談を行ない、本人の思いや提案の反映に努めている。日頃から職員が管理者へ小さな相談もしやすい関係性になっており、また、リーダーが現場でコミュニケーションを取り、管理者との情報共有もしている。	新管理者はフロアリーダーからの抜擢であり、他の職員とも良好なコミュニケーションが取れている。今後、2ヶ月に1度の定期的な職員面談を再開する予定である。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	定期的な個人面談を実施し、職員本人から努力している事やアピールポイントを聞き出し、その評価や助言、向上心の持てる働きかけを行なっている。また、就業しやすいよう勤務についても個々の要望に応えられるよう努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内での新人研修から管理者研修・リーダー研修など個人能力に応じた研修へ参加している。日々の実践の場でもOJTを行ない、また、必要に応じて面談を行ない指導している。外部研修に関しては、コロナ禍の為中止。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	毎月第3火曜日に近隣の介護施設の職員が集まり勉強会や意見交換会を行なっているが、本年はコロナ禍の為中止している。相互訪問についてもコロナ禍のため、取り組まれていないが、終息した後は実践していきたい。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	契約時にご本人様の要望を聞き、その人らしく過ごして頂ける様支援している。また、要望を上手く表出できない利用者様にはご家族様から情報収集を行なっている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	契約時にご家族様が思うご本人様に望む生活を伺い、共にご本人様を支援する姿勢であることを伝え理解を頂いている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	まずはご本人様の出来ることを探り、何が必要かを見極めるよう努めている。必要に応じて医療的な支援もできるよう関係機関との連携もしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者様同士も助け合いスタッフも利用者様に手伝って頂き尊重できる関係を築いている。□かしながら、まだまだ言葉や態度から職員が“介護をしてあげている”と言う感じが見受けられるため、常に意識して取り組む必要がある。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	スタッフは日常生活全般の支援をしているが、ご家族様は精神面で重要であることを伝えており、関係性が途切れない様に努めている。また、ご家族様にも相談し、共に支えているという意識をお互いに持てるように努めている。どちらかに偏ることの無いよう関係性を築けるよう努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族様の許可を確認した上で、ご友人の面会や外出も可能な支援ができています。現在はコロナ禍のため不要不急の外出は控えて頂いている。	コロナ禍により、馴染みの人や場所への支援が中断している。趣味の継続を支援しており、居室でちぎり絵やクロスワードを楽しむ利用者がいる。読書を趣味とする利用者は図書館への外出ができず、新しい書籍の貸し出しは受けていない。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	スタッフがある程度利用者様の関係性を把握してトラブルにならない様支援をしている。又、孤立されておられる利用者様がいればスタッフが出来る限り寄り添って家族のような関係性を築いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居されてから3年以上経過しているご家族様からのお電話やお手紙を頂くこともあり、また、入居のご紹介を口コミで頂くこともある。 <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/>		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人様に聞くことが大前提ではあるが、なかなか訴えを表現できない方もおられる。そのため、行動や表情、不安の訴えからも利用者様の希望を把握し、職員間で情報共有し本人がどうしたいかを考えている。 <input type="checkbox"/>	利用者の入れ替えがあつて、平均要介護度が2.5前後と、症状の軽い利用者が増えてきた。意向を自ら表出できる利用者もおり、要望は可能な限り実現させるように取り組んでいる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人様からの聞き取りが難しい方は、入居時に家族から情報を聞き取り、不明点は入居後の生活の中から癖や習慣など情報収集に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	生活習慣や健康状態、精神状態を情報収集し申し送りなどで共有し把握に努めている。利用者様同士の会話の中からも情報を得ている。 <input type="checkbox"/>		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	その人らしさを大切にし、ご家族様の思いも汲みつつ、介護計画書の名前を確認しなくても誰の介護計画書かわかるようなものになっている。また、定期的にモニタリング用紙を配布し情報収集している。	家族からの要望もあり、入居後も飲酒と喫煙を継続している利用者がある。本人の健康を考慮し、介護計画に取り上げて支援している。計画に沿ったアルコールの提供により、利用者は生活リズムを取り戻し、肝機能の数値も改善された。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子の変化は常時記録に残し、重要性があれば口頭での申し送りにて継続して伝えている。全員が理解するまで申し送りし、スタッフミーティング等で振り返り、見直しを行なっている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	法人内のデイサービスや地域交流スペースを活用し、事業所内だけで完結せず開かれた空間としている。また、法人の力を活用し、医療的なケアも必要に応じて受けられるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域のスーパーや図書館などを利用し、馴染みの場所に通えるようにしている。散歩では公園に行き、子どもたちの声を聞いたり見たりと、触れる機会を作っている。本年は近所の保育園と連携して交流を図る目標があったが、新型コロナウイルスの関係で延期となっている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	事業所指定のかかりつけ医とせず、ご家族様のご希望に応じて、これまでのかかりつけ医院等への受診も継続して頂けている。また、必要な情報を文章(情報提供書)にし、ご家族様にお渡しする等も行っている。	2医療機関と協力体制を組み、利用者の状況・状態を考慮して使い分けている。従来のかかりつけ医を継続して利用することも可能であるが、通院は家族対応となる。情報提供書を介して、適切な医療が受けられるよう配慮している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	事業所には非常勤で看護師を配置しているが、必要に応じて法人グループ内の玉池在宅クリニックと情報共有し、訪問看護等がスムーズに出来るようにもしている。介護職員は利用者様の体調の変化に少しでも違いがあれば看護師と連携し、いち早く気づけるよう日々状態観察をしている。必要時は往診医に指示を仰ぎ対応している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	早期退院に向けて病院の看護師やソーシャルワーカーと連携している。また、ご家族の意向を確認しつつ、ご本人様にとって最善を尽くせるよう医療連携を図っている。□		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時の段階から終末期についての話をさせて頂き、どのような最期を望まれるかを話し合っている。ご本人様のご希望とご家族様の希望を伺い、事業所としてできることも説明している。しかしながら、契約時のお気持ちと、いざその時のお気持ちでは心境の変化も当然ながらあるため、その都度納得するまで話し合いをしている。	入居時に終末期の支援についての話し合いを行っており、ほとんどの利用者、家族が過度の延命措置を望まず、ホームでの看取りを希望している。家族の思いの変化に配慮し、利用者の症状の変化の都度、家族の意向を再確認している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	全職員ができるかと言えば難しいが、初期対応が出来るよう管理者や医療職との連携は取れるようにしている。また、コロナ禍であるため、本年は実施できていないが、年に2度AED・心肺蘇生の研修を実施している。また、法人内にあるAEDの設置場所も把握している。□		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	2ヶ月に1度の間隔で防災訓練を行い、年に2度の消防団の方との協力のもと消火訓練を行う予定であったが、コロナ禍のため、最低限(年2回)の火災による避難訓練に留まり、2月中に西消防署との図上訓練と消火訓練実施(予定)となっている。	隔月でホームの防災訓練を実施し、年間2回は地域の消防団が参加する。しかし、コロナ禍によって消防団の参加が見合わせられている。一方、消防署と水害対応の打ち合わせを持ち、様々な状況を想定した手順を策定した。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉遣いについて意識的に取り組み、職員同士互いに注意し合い、一人の人であると言う意識を持って認知症の理解に努めている。現状としては不十分であるため、更なる改善が求められる。	職員ミーティングで、適切な言葉掛けについて話し合っている。「敬語を使う」ことを必ずしも善しとせず、その人、その時、その場面に相応しい言葉を使うことを指導している。利用者の呼称に関しては、本人や家族の意向も尊重している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	「はい、いいえ」で終わってしまう声掛けではなく、ご本人様の言葉を引き出している。また、表面上の言葉では伝わらないことも、表情や仕草で何を訴えられているか察することができるように努めている。□		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	自己決定が出来るかわからない利用者様が多い為、表情や行動で想いを汲み取り、ご本人様の希望に沿えるように努めている。また、職員側の都合になっていないか、ミーティングで随時話し合われている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご自宅で使われていた馴染みの物や好みの物をご家族様が持参されている。起床時に整容し身だしなみを整えている。外出時に口紅を塗られる方もおられる。また、定期的に訪問理容をお願いし、ご利用者様に理容師さんがいるため、ご家族の承諾を得て切っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	買い物から食事作りまで利用者様と一緒にいる。台所などで立って調理が出来ない方には、リビングにて座って野菜を切ったり混ぜるなど、その方のできることを行っている。コロナ禍のため、買い物は中止し、職員と一緒に食べることは避けている。	1~2日ごとの食材の買出しは、利用者の帯同を自粛して職員だけで行っている。利用者はそれぞれの力量や意思により、調理や後片づけを手伝っている。職員は利用者の好き嫌いを把握し、苦手な食材は代替えの品を提供している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	家庭的な料理の為、好きなものを食べて頂き、栄養重視ではないが、出来る限り野菜類を多く取り入れている。利用者様の状態によっては、刻み食やペースト状にし提供し支援している。可能な限り口から食事を摂って頂けるよう努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアを促しており、磨き残しなどは一部介助させて頂いている。義歯も2日に1度は洗浄液にて口腔衛生に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	トイレチェック表にて個々の排泄パターンを把握し、トイレでの排泄ができるよう取り組んでいる。また、パッドが本当に必要かをスタッフで共有している。“夜間は必要だが日中は不要”などの状況に応じた対応もしている。	排泄自立の利用者は、排泄後の確認だけであるが、多くの利用者はチェック表を参考に声掛けや誘導を行っている。家族からの希望により、同性の職員によって介助を受ける利用者もいる。夜間にはポータブルトイレの利用がある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事のメニューに出来る限り野菜を多く取り入れ、水分補給も細目に勧め水分量も多く摂って頂いている。また、散歩など運動する機会を増やし自然な排便を促している。内服薬も使わないように努めているが、難しい場合は医師に相談し排便コントロールを行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	毎日入って頂ける環境を整えているが、断られる方が多いのが現状で、それでも声掛けの工夫をしたりスタッフを替え、気持ち良く楽しんで入って頂けるよう支援をしている。	2日に1度の入浴が基本であるが、家族の希望によって毎日入浴する利用者がある。軽い入浴拒否がある利用者も、職員の適切な声掛けや工夫によって入浴できており、清潔を保っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者様の意思や体調面に応じて居室にて休んで頂いている。また、転倒リスクのある利用者様はご本人様の納得の上でリビングのソファなどを活用し休息して頂いている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員総てが理解しているかと言えば厳しいが、各階のリーダーを中心に把握しており、内服の変更時には日々の状態を細かく記録に残し効果や変化を見ている。また、必要に応じて臨機応変に状況をかかりつけ医に報告している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	お料理が得意な方、掃除が得意な方、時折レクリエーション(トランプ・ぬり絵・かるた)等が好きな方と、それぞれの個性に合わせて楽しんで頂いている。又、たばこやお酒など嗜好品なども、ご家族様と相談しつつ提供し支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍の為密集する外出は自粛しているが、ほぼ毎日ご近所周辺や近くの公園へお散歩に行かれている。また、ご家族様が面会に来られて際はお散歩や外出はされている。外出に関しては、3蜜を避けて頂くように声掛けにて対応している。	ホーム周辺や公園への散歩以外の外出支援は、ほぼ全面的にストップしている。家族との外出も、通院以外には法事や祝い事に出席するための帰宅等に限定されている。	現在不穏を訴える利用者はいないが、長引く外出自粛の影響から閉塞感に陥る利用者が出ないよう、散歩以外の外出を工夫することが望まれる。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的には金銭のお預かりはしていないが、ご家族様と相談の上、少額の金銭を自己管理される方もおられる。購入は事業所の立替えとなるが好きな物を買えるようご家族様とも相談し、ご支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人様のご希望とご家族様の許可があれば事業所からお電話やお手紙をお送って頂いている。また、ご本人様宛に届いたもののお礼など、直接お電話にてお話し出来るよう取り次いでいる。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	臭いについては特に意識しており、清潔な空間作りに努めている。カーテン洗いや窓ガラス掃除も定期的に行い、全フロアのワックス掛けも年に2度行っている。また、生活空間として、食事内容が分かるように献立を貼る壁紙を、四季に応じて変え、季節感を出している。そして庭には四季折々の木々が植わっており、車いすの方でも出られるようスロープも設置した。窓から見える景色も楽しんで頂けるよう努めている。	段差があって使用する頻度が減少していた量のコーナーが取り払われ、フラットなフローリングの床に改築された。会議用テーブルと椅子が置かれ、様々な用途に活用されそうである。冬場に活躍した大きな薪ストーブが、共有空間の入り口横で存在感を示している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間で独りになる場合は難しいが、独りになりたいであろう場合は散歩などにお誘いして気分転換を図っている。また、相性の良い利用者様同士が隣になるような環境を作っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に説明し、ご本人様やご家族様のご意向で馴染みのものタンスや布団を持参して頂いている。プライベート空間としてくつろげる空間を意識している。	【居室の見学は自粛】 1Fユニットでは、昼間の時間帯に居室に戻る利用者はほとんどいない。2Fユニットでは、居室に戻ってちぎり絵等の趣味を楽しむ利用者がある。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	新たに庭へ出る際のスロープと手すりや、廊下に手すりを取り付け、職員の手を借りることなく歩けるなど、自立支援にもつながった。また、トイレや居室が分るよう貼紙をしたり、できることはご自身で行って頂けるよう声掛けをしている。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2370400992		
法人名	有限会社アット		
事業所名	アットホームあいり		
所在地	愛知県名古屋市西区玉池町255番		
自己評価作成日	令和 3年 2月 1日	評価結果市町村受理日	令和 3年 6月15日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/23/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JigvosyoCd=2370400992-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 中部評価センター		
所在地	愛知県名古屋市緑区左京山104番地 加福ビル左京山1F		
訪問調査日	令和 3年 4月17日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

本年度は新型コロナウイルスの流行以前はご利用者様と毎日買い物に出かけ、月に一度の外出をしていました。しかしながら、感染症対策でそれもままならず、その分、今まで以上に近所の公園やホーム周辺の散歩へは積極的に出かけ、少しでも外の空気を感じて頂ける様に努めている。日々の生活ではご利用者様と一緒に食事を作り、共に心の籠った温かい家庭的な料理を提供している。日当たりの良い庭には四季折々の木々が植えられており、庭に出ると季節を感じて頂けるような環境になっている。また、冬場には1Fリビングに暖炉が設置しており、自然なぬくもりを感じ心安らぐ空間になっている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	入職時のオリエンテーションや月1回の全体ミーティングとスタッフミーティングで事業所の理念は共有されており意識している。事業所理念の「男性は男性らしく、女性は女性らしく、人間は人間らしく」については、ジェンダーの観点からも見直しが検討されるが、ご家族様との意見調整をする中で現状のままとしている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域のお祭り、年末の防犯パトロール、清掃活動などへ参加させて頂き、また、事業所主催である交流会として、いどばた会やうたご喫茶を開催していたが、本年度はコロナ禍の為中止している。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	事業所主催でのいどばた会やうたご喫茶を通じてホームで生活されている方との交流を図っている。また、軽い体操をしたり時事問題を話したりと、地域の方にも有意義な時間を過ごして頂けるよう努めている。上記同様、本年度はコロナ禍の為、中止している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	自治会長、民生委員、消防団団長、いきいき支援センター、社会福祉協議会、ご家族様代表、利用者様に参加して頂き、地域の情報を頂いたり、ホームでの活動報告をしている。情報交換する事でサービス向上に活かされ、そこでの内容を現場と共有し反映させている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市町村担当者との関りはほとんどないが、運営推進会議を通して、いきいき支援センター、社会福祉協議会の方々と情報交換をおこなう事で、小さな事でも相談できる関係性づくりに努めている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束についての勉強会を行い、また、月1回のミーティングでは各自のケアの振り返りを必ずおこなっている。その都度、原点に立つ事ができ、共に反省したり助言をもらい共有している。潜在的な身体拘束にも意識し、不適切なケアの廃止に努めている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待についての勉強会を行い、月に一度のミーティングでも身体拘束と同様に話し合われている。また、法人全体でメンタルヘルスの研修を実施し、職員自身の感情コントロールについても講義を受け防止に努めている。常に危機意識を持ち、虐待防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護についての勉強会を行うものの、制度などの深い理解は得られていない。しかしながら、日々の利用者様の権利を守るべく意識はされており取り組んでいる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時に説明を行い、疑問点は随時受け応えている。また、ケアプラン更新の際にも、ご家族様へ説明を行い、終末期については入居の段階でも話をさせて頂いている。日頃からの関わりを良好に保てているおかげで、退去時等も円滑に進められている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	コロナ禍のため本年は中止しているが、年に2度の家族会の開催をしており、ご家族様からの意見を頂いている。発言をしやすく事業所側から情報も提供し、活発な意見交換ができるよう努めている。また、面会時やケアプラン説明時などにご家族様からのご要望を伺い、忌憚のない意見を頂戴している。ご本人様からの発信が少ないが、要望があれば応えられるようしている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	全体ミーティングとスタッフミーティングで意見を表出する場があり、個別でも定期的に管理者が個人面談を行ない、本人の思いや提案の反映に努めている。日頃から職員が管理者へ小さな相談もしやすい関係性になっており、また、リーダーが現場でコミュニケーションを取り、管理者との情報共有もしている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	定期的な個人面談を実施し、職員本人から努力している事やアピールポイントを聞き出し、その評価や助言、向上心の持てる働きかけを行なっている。また、就業しやすいよう勤務についても個々の要望に応えられるよう努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内での新人研修から管理者研修・リーダー研修など個人能力に応じた研修へ参加している。日々の実践の場でもOJTを行ない、また、必要に応じて面談を行ない指導している。外部研修に関しては、コロナ禍の為中止。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	毎月第3火曜日に近隣の介護施設の職員が集まり勉強会や意見交換会を行なっているが、本年はコロナ禍の為中止している。相互訪問についてもコロナ禍のため、取り組まれていないが、終息した後は実践していきたい。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	契約時にご本人様の要望を聞き、その人らしく過ごして頂ける様支援している。また、要望を上手く表出できない利用者様にはご家族様から情報収集を行なっている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	契約時にご家族様が思うご本人様に望む生活を伺い、共にご本人様を支援する姿勢であることを伝え理解を頂いている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	まずはご本人様の出来ることを探り、何が必要かを見極めるよう努めている。必要に応じて医療的な支援もできるよう関係機関との連携もしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者様同士も助け合いスタッフも利用者様に手伝って頂き尊重できる関係を築いている。□かしながら、まだまだ言葉や態度から職員が“介護をしてあげている”と言う感じが見受けられるため、常に意識して取り組む必要がある。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	スタッフは日常生活全般の支援をしているが、ご家族様は精神面で重要であることを伝えており、関係性が途切れない様に努めている。また、ご家族様にも相談し、共に支えているという意識をお互いに持てるように努めている。どちらかに偏ることの無いよう関係性を築けるよう努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族様の許可を確認した上で、ご友人の面会や外出も可能な支援ができています。現在はコロナ禍のため不要不急の外出は控えて頂いている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	スタッフがある程度利用者様の関係性を把握してトラブルにならない様支援をしている。又、孤立されておられる利用者様がいたらスタッフが出来る限り寄り添って家族のような関係性を築いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居されてから3年以上経過しているご家族様からのお電話やお手紙を頂くこともあり、また、入居のご紹介を口コミで頂くこともある。 <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/>		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人様に聞くことが大前提ではあるが、なかなか訴えを表現できない方もおられる。そのため、行動や表情、不安の訴えからも利用者様の希望を把握し、職員間で情報共有し本人がどうしたいかを考えている。 <input type="checkbox"/>		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人様からの聞き取りが難しい方は、入居時に家族から情報を聞き取り、不明点は入居後の生活の中から癖や習慣など情報収集に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	生活習慣や健康状態、精神状態を情報収集し申し送りなどで共有し把握に努めている。利用者様同士の会話の中からも情報を得ている。 <input type="checkbox"/>		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	その人らしさを大切にし、ご家族様の思いも汲みつつ、介護計画書の名前を確認しなくても誰の介護計画書か分かるようなものになっている。また、定期的にモニタリング用紙を配布し情報収集している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子の変化は常時記録に残し、重要性があれば口頭での申し送りにて継続して伝えている。全員が理解するまで申し送りし、スタッフミーティング等で振り返り、見直しを行なっている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	法人内のデイサービスや地域交流スペースを活用し、事業所内だけで完結せず開かれた空間としている。また、法人の力を活用し、医療的なケアも必要に応じて受けられるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域のスーパーや図書館などを利用し、馴染みの場所に通えるようにしている。散歩では公園に行き、子どもたちの声を聞いたり見たりと、触れる機会を作っている。本年は近所の保育園と連携して交流を図る目標があったが、新型コロナウイルスの関係で延期となっている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	事業所指定のかかりつけ医とせず、ご家族様のご希望に応じて、これまでのかかりつけ医院等への受診も継続して頂けている。また、必要な情報を文章(情報提供書)にし、ご家族様にお渡しする等も行っている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	事業所には非常勤で看護師を配置しているが、必要に応じて法人グループ内の玉池在宅クリニックと情報共有し、訪問看護等がスムーズに出来るようにもしている。介護職員は利用者様の体調の変化に少しでも違いがあれば看護師と連携し、いち早く気づけるよう日々状態観察をしている。必要時は往診医に指示を仰ぎ対応している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	早期退院に向けて病院の看護師やソーシャルワーカーと連携している。また、ご家族の意向を確認しつつ、ご本人様にとって最善を尽くせるよう医療連携を図っている。□		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時の段階から終末期についての話をさせて頂き、どのような最期を望まれるかを話し合っている。ご本人様のご希望とご家族様の希望を伺い、事業所としてできることも説明している。しかしながら、契約時のお気持ちと、いざその時のお気持ちでは心境の変化も当然ながらあるため、その都度納得するまで話し合いをしている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	全職員ができるかと言えば難しいが、初期対応が出来るよう管理者や医療職との連携は取れるようにしている。また、コロナ禍であるため、本年は実施できていないが、年に2度AED・心肺蘇生の研修を実施している。また、法人内にあるAEDの設置場所も把握している。□		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	2ヶ月に1度の間隔で防災訓練を行い、年に2度の消防団の方との協力のもと消火訓練を行う予定であったが、コロナ禍のため、最低限(年2回)の火災による避難訓練に留まり、2月中に西消防署との図上訓練と消火訓練実施(予定)となっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉遣いについて意識的に取り組み、職員同士互いに注意し合い、一人の人であると言う意識を持って認知症の理解に努めている。現状としては不十分であるため、更なる改善が求められる。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	「はい、いいえ」で終わってしまう声掛けではなく、ご本人様の言葉を引き出している。また、表面上の言葉では伝わらないことも、表情や仕草で何を訴えられているか察することができるように努めている。□		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	自己決定が出来るかわからない利用者様が多い為、表情や行動で想いを汲み取り、ご本人様の希望に沿えるように努めている。また、職員側の都合になっていないか、ミーティングで随時話し合われている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご自宅で使われていた馴染みの物や好みの物をご家族様が持参されている。起床時に整容し身だしなみを整えている。外出時に口紅を塗られる方もおられる。また、定期的に訪問理容をお願いし、ご利用者様に理容師さんがいるため、ご家族の承諾を得て切らせて頂いている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	買い物から食事作りまで利用者様と一緒にいる。台所などで立って調理が出来ない方には、リビングにて座って野菜を切ったり混ぜるなど、その方のできることを行っている。コロナ禍のため、買い物は中止し、職員も一緒に食べることは避けている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	家庭的な料理の為、好きなものを食べて頂き、栄養重視ではないが、出来る限り野菜類を多く取り入れている。利用者様の状態によっては、刻み食やペースト状にし提供し支援している。可能な限り口から食事を摂って頂けるよう努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアを促しており、磨き残しなどは一部介助させて頂いている。義歯も2日に1度は洗浄液にて口腔衛生に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	トイレチェック表にて個々の排泄パターンを把握し、トイレでの排泄ができるよう取り組んでいる。また、パッドが本当に必要かをスタッフで共有している。“夜間は必要だが日中は不要”などの状況に応じた対応もしている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事のメニューに出来る限り野菜を多く取り入れ、水分補給も細目に勧め水分量も多く摂って頂いている。また、散歩など運動する機会を増やし自然な排便を促している。内服薬も使わないように努めているが、難しい場合は医師に相談し排便コントロールを行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	毎日入って頂ける環境を整えているが、断られる方が多いのが現状で、それでも声掛けの工夫をしたりスタッフを替え、気持ち良く楽しんで入って頂けるよう支援をしている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者様の意思や体調面に応じて居室にて休んで頂いている。また、転倒リスクのある利用者様はご本人様の納得の上でリビングのソファなどを活用し休息して頂いている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員総てが理解しているかと言えば厳しいが、各階のリーダーを中心に把握しており、内服の変更時には日々の状態を細かく記録に残し効果や変化を見ている。また、必要に応じて臨機応変に状況をかかりつけ医に報告している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	お料理が得意な方、掃除が得意な方、時折レクリエーション(トランプ・ぬり絵・かるた)等が好きな方と、それぞれの個性に合わせて楽しんで頂いている。又、たばこやお酒など嗜好品なども、ご家族様と相談しつつ提供し支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍の為密集する外出は自粛しているが、ほぼ毎日ご近所周辺や近くの公園へお散歩に行かれている。また、ご家族様が面会に来られて際はお散歩や外出はされている。外出に関しては、3蜜を避けて頂くように声掛けにて対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的には金銭のお預かりはしていないが、ご家族様と相談の上、少額の金銭を自己管理される方もおられる。購入は事業所の立替えとなるが好きな物を買えるようご家族様とも相談し、ご支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人様のご希望とご家族様の許可があれば事業所からお電話やお手紙をお送って頂いている。また、ご本人様宛に届いたもののお礼など、直接お電話にてお話し出来るよう取り次いでいる。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	臭いについては特に意識しており、清潔な空間作りに努めている。カーテン洗いや窓ガラス掃除も定期的に行い、全フロアーのワックス掛けも年に2度行っている。また、生活空間として、食事内容が分かるように献立を貼る壁紙を、四季に応じて変え、季節感を出している。そして庭には四季折々の木々が植わっており、車いすの方でも出られるようスロープも設置した。窓から見える景色も楽しんで頂けるよう努めている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間で独りになる場合は難しいが、独りになりたいであろう場合は散歩などにお誘いして気分転換を図っている。また、相性の良い利用者様同士が隣になるような環境を作っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に説明し、ご本人様やご家族様のご意向で馴染みのものタンスや布団を持参して頂いている。プライベート空間としてくつろげる空間を意識している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	新たに庭へ出る際のスロープと手すりや、廊下に手すりを取り付け、職員の手を借りることなく歩けるなど、自立支援にもつながった。また、トイレや居室が分るよう貼紙をしたり、できることはご自身で行って頂けるよう声掛けをしている。		